

## 米国 カリフォルニア州のカンキツグリーニング病検疫地域を拡大・設定

米国農務省動植物検疫局通知 DA-2023-19 2023年10月10日(13日送信)

件名: APHISがカリフォルニア州のカンキツグリーニング病検疫地域を拡大・設定

宛先: 州、部族及び海外領土の農業規制当局担当官

以下は直ちに発効する。米国農務省動植物検疫局(APHIS)は、カリフォルニア州食品農業局(CDFA)と協力して、同州のHLB(黄龍病: *Candidatus Liberibacter asiaticus* によって引き起こされるカンキツグリーニング病)の検疫地域を拡大する。APHISは、同州のロサンゼルス、オレンジ、リバーサイド、サンバーナーディーノ、サンディエゴの各郡の一部を通知DA-2022-21の検疫地域に追加する。APHISはさらに、カリフォルニア州ベンチュラ郡の一部にも検疫地域を設定する。APHISは、同州での定期的な調査の中で、複数の場所で収集された植物組織のサンプルからHLBが検出されたためにこの措置を講じるものである。

APHISは、カリフォルニア州の検疫地域からの規制対象物の州間移動に安全措置を適用している。これらの措置は、CDFAが定める州内の検疫と並行して実施される。このことは、米国内の非感染地域へのHLBの拡散を防ぐために必要である。

カリフォルニア州の検疫地域の特定の変更についてはこの文書に添付されており、[APHISカンキツグリーニング病ウェブサイト](#)にも掲載されている。APHISは、おってこの変更通知を連邦官報に掲載する。

添付資料: [カンキツグリーニング病及びミカンキジラムの検疫地域](#) (2024年3月に「黄龍病」の表記を修正)

## 米国 フロリダ大学がカンキツグリーニング病抵抗性品種を発表

FreshFruitProtal 2023年10月11日

HLBとしても知られるカンキツグリーニング病は、フロリダ州の柑橘類部門にとって常に頭痛の種である。しかし、フロリダ大学食品農業科学研究所(UF/IFAS)の柑橘類研究教育センター(CREC)が発表した新しい穂木品種はこれを変える可能性がある。

CRECは、生産性の改善に向けて取り組んできており、その育種プログラムは2023年に3つの新しい穂木品種を発表した。同センターはUF/IFASのキャンパス外試験場の中で最も古く、かつ最大であり、柑橘類という1つの品目に完全に特化している。

現在1859として知られているスイートオレンジ類似の交雑種は、HLBに20年以上暴露された後、この病気に対する高い耐性のおかげで今年、開発用に選択された。1859の果実はスイートオレンジに似ており、11月中旬に成熟し始め、1月下旬まで樹上にしっかりと保持される。この間に、果肉と果皮の色が大幅に改善し、最終的に非常に濃いオレンジ色になる。

### その他の品種

CRECはまた、種が無く、かつ果皮油の量が多いため、二重の目的で可能性のあるユーレカ種のレモンを発表した。このレモン品種は、フロリダ州のほか南米で大規模にテストされた。他のユーレカ種とは異なり、この選別された穂木はヒリュウ台木(カラタチ台木的一种)で栽培されたため、ユーレカ種によく見られるカラタチ台木との相性の悪さの影響を受けないようである。

また、現在RES 19-56として知られている、早生で、種無しで、皮をむきやすいマンダリンの交雑種も発表された。この選別された穂木は自然にコンパクトに育ち、他家受粉なしで、早い時期に毎年結果する。独特の着果特性があり果実が房状になることも多い。被覆条件下で柑橘類を育てる際に、そのコンパクトな生育特性により剪定の必要性を最小限に抑える利点がある。その独特の樹形と着果特性により、プールサイドやテラスで鉢植えの観賞用柑橘類として育てることができるため、フロリダ州の多くの家庭園芸家にとって貴重な品種となる可能性も示唆されている。